

国連と日本

1. 国連は未完成 日本における国連のイメージとの相違
 - 国連待機軍は実現していない。
 - 第二次大戦の戦勝国が安全保障理事会を牛耳っている。
 - 少数の先進国が予算の大半を負担している。

2. 国連の三つの姿
 - (1) 事務総長 (事務局、諸機関)
 - 憲章の目標を追求、国際社会の課題の設定
 - 紛争の予防、解決 (特別代表、調査ミッション、カルテットの一員) 安保理への勧告
 - 紛争防止、復旧、復興 (PKO、政治ミッション、UNHCR、UNICEF、UNDP)
 - ・日本の最大の貢献は財政支援、人的貢献は不足 (自衛隊、文民警察、行政官)
 - ・邦人職員の増強が課題 (PKO局に自衛官) 分担金との見合い
 - ・アナン事務総長は毎年訪日する。(アジアでは日本と中国のみ)

 - (2) 総会、経済社会理事会 (信託統治理事会)
 - 国際社会の主要課題 (環境、貧困、女性等々) についてのコンセンサス作り
 - 開発問題と人権問題に特別の焦点 (経済社会理事会)
 - 予算の決定 (通常予算、PKO予算)
 - ・日本の発言権は大きい (ほとんどの理事会、委員会に当選)。発言力は?
 - ・予算編成で指導力 (ゼロ成長、分担率)

 - (3) 安全保障理事会
 - 常任理事国が絶対的な力 (拒否権)
 - 非常任理事国は任期2年
 - 安全保障理事会に入っていないと発言権がほとんどない。
 - ・日本は現在、安保理に入っていない。北朝鮮問題の取り扱いへの影響?
 - ・外からの働きかけ: 東チモール (コア・グループ)、アフガニスタン (支援会合)

3. 安保理改革 - 三つの課題
 - 何カ国まで拡大するか? (15 23 ~ 26)
 - 新常任理事国をどの国にするか? (先進国、アフリカ、アジア、ラテン・アメリカ)
 - 拒否権をどうするか? (186対5)
 - ・日本が指導力を発揮することが期待されている。
 - ・米国の協力が鍵 (小泉・ブッシュ共同発表)

4. 要望: 国連についての調査団派遣